

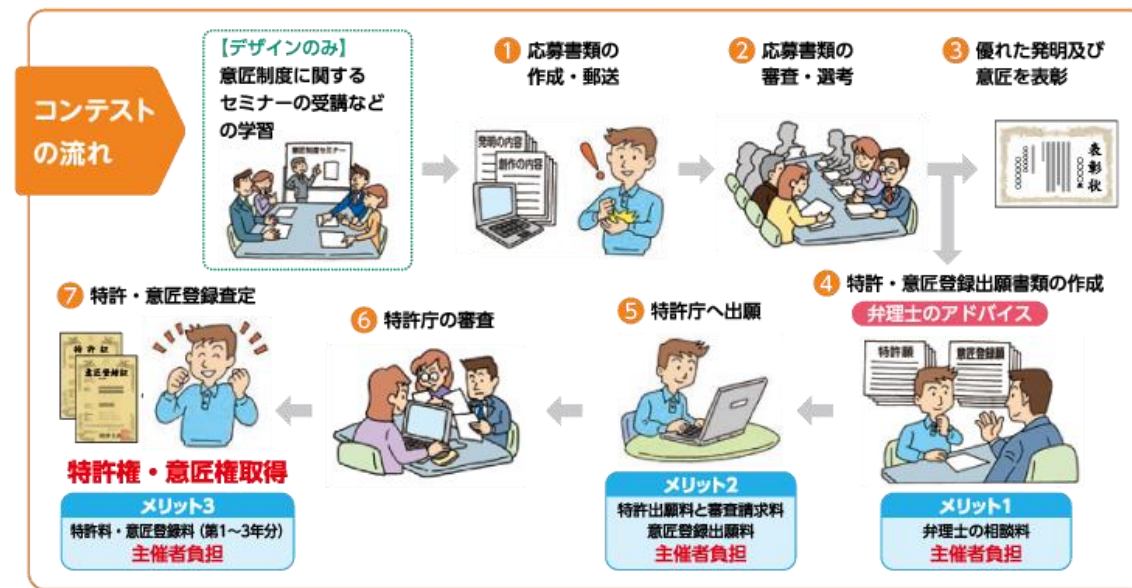
★郡上の魅力は！！！！！！！！郡上踊り！！！！

私たちが下駄について調べようと思ったきっかけは、郡上といたら「郡上踊り」だと思いました。

踊りといたら、カランカランとなる下駄が魅力的です。そして、踊りといたら、下駄が欠かせないと思いました。そこで、私たちは下駄をみたらすぐに「郡上だ！」と思ってもらえるような下駄を自分たちで作りたいと思いました。そして最終的にはパテントコンテストに応募することを目標にしていこうと思いました。

1. パテントコンテストとは

高校生や大学生が、自ら考え出した発明やデザインについて応募し、優秀なものが表彰されます。実際に特許庁へ出願を支援することで、特許権または意匠権の取得の権利を得ることができます。



コンテストの流れ

2. 意匠権とは

意匠権とは、「製品や商品のデザインについて独占権を認める制度」です。

意匠権を取得すれば、意匠権者はそのデザインを独占的に使用することができます。

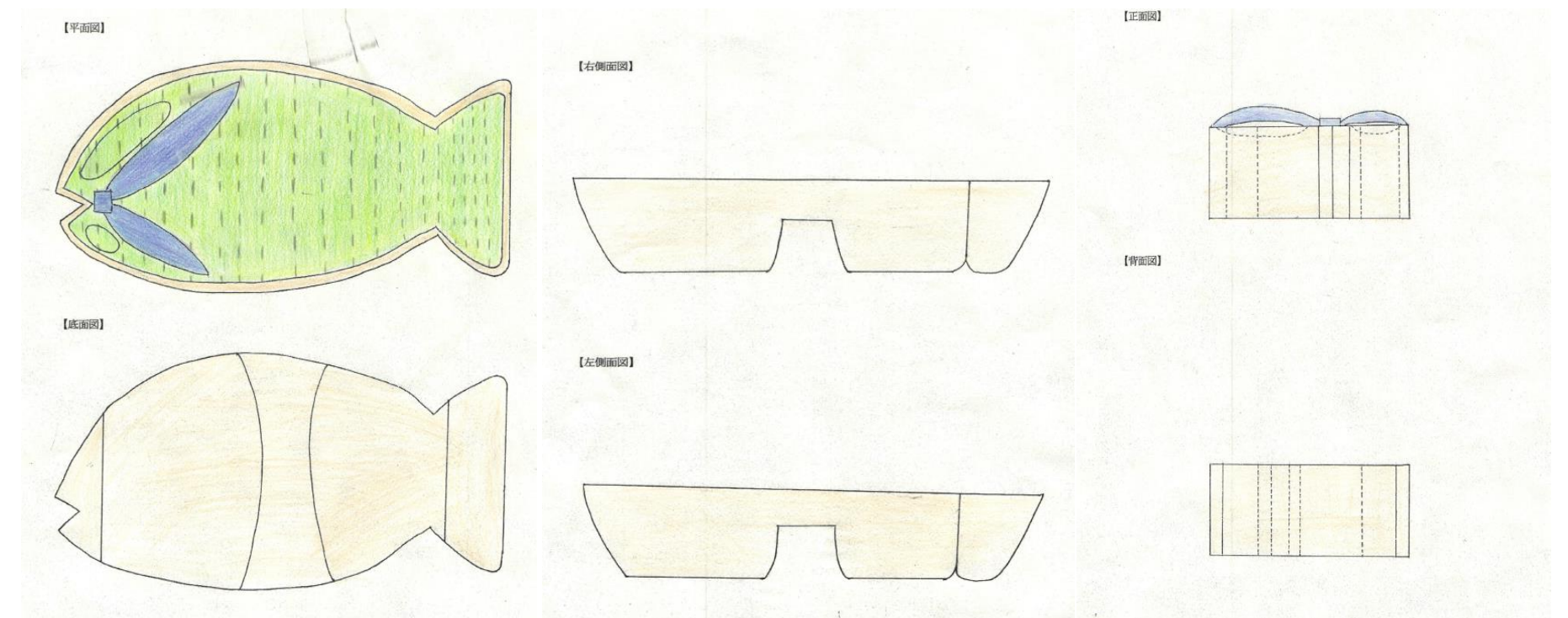
コピー商品、類似商品など模倣品を法的な強制力を持って排除することができます。

そして、自分で考えたデザインの審査を得たうえで、20年間意匠権に基づく権利を独占することもできます。類似範囲まで効力が及ぶのが特徴です。

3. 意匠権を取得するための条件

- ①工業上のデザインであること
- ②誰でも思いつくような簡単なデザインでないこと
- ③未発表あるいは発表後6カ月以内のデザインであること
- ④類似のデザインについて意匠権が出願されていないこと

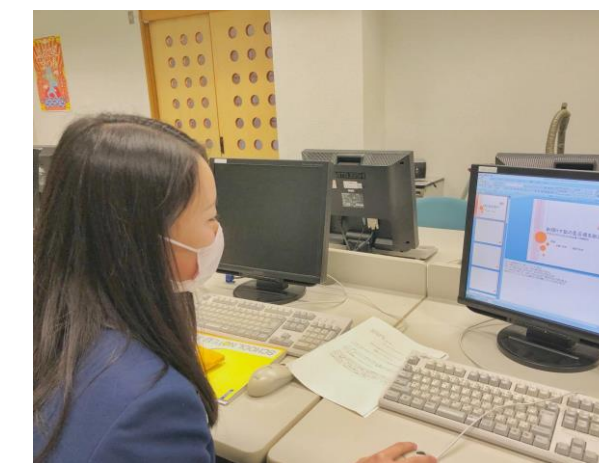
＜パテントコンテストに応募したデザイン＞



コンテストに提出した書類より



体験で制作した下駄



pc 頑張り中

4. 私たち1年間の道のり

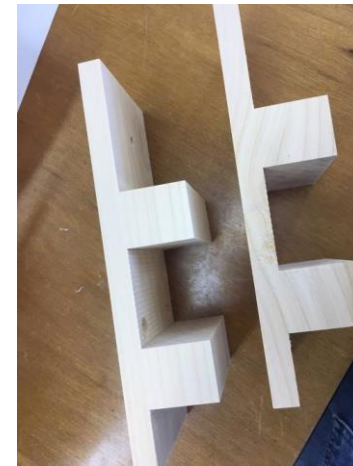
(1) 下駄作り体験!!!

白鳥のふれあい創造館で郡上木履さんが下駄作りの体験を開くと聞き、体験に参加しました。

まず、自分の足の形の台紙を木にあて鉛筆でなぞっていきます。そのときに私たちは丸い感じの形にしましたが、他には四角い形や、猫の形、二つ合わせてハートの形になるように鉛筆で型どっている方もいました。その形にそってのこぎりですぐ切り、そのあとにやすりを使って手触りをよくするように削っていききました。最後に鼻緒をつけるときに丸い穴に通すときすごく力を使いました。難しくてなかなかできませんでした。



かたどり中



<BEFORE>



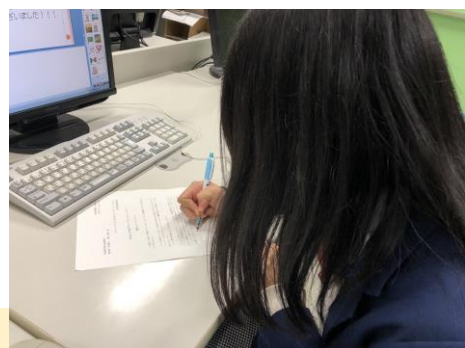
<AFTER>

(2) デザイン考案!!!

下駄のデザインを考えるために、夏休み中に郡上の魅力について調べました。

1人20個のデザインを考え合計40個のデザイン案を出しました。

明宝ハムをもとにした下駄や、レールバスをもとにした下駄、八幡城をもとにした下駄や、スキーをもとにした下駄など様々な案が出た中で、一番郡上の魅力だと思う「アユ」をもとにした下駄に決定しました。



(3) 発泡スチロールで実際に作成!!!

自分たちで考えたデザインをもとにつくった図面で実際に下駄を作ろうと思いました。木で作ることは難しいので、まず形が簡単に作れそうな発泡スチロールで作ろうと思いました。

まず、発泡スチロールを下駄の大きさに切り、下駄の高さに合わせて接着剤でくっつけ、乾いたらカッターでアユの形になるように作っていききました。高さがあるので地道に切っていました。すごく大変でした。



発泡スチロールを接着中



完成!!

(4) パテントコンテストに応募!!!

まず下駄の形をアユの形にし、足が安定して疲れにくくするために、指の部分にへこみをいれました。それと、クッションになるように面を畳にしました。

パテントコンテストに応募した結果残念ながら意に沿う結果とはなりませんでしたが、

パテントコンテスト選考委員会の方から

「ユニークな下駄を創作されましたね。鮎を意識して創作されたとのことですが、さらに、鮎をよく観察して、より鮎を感じさせることができるデザインを追求されてみてはいかがでしょうか。郡上では、天然鮎を観察することは容易と思われるので、一見して鮎を意識させるデザインを創作されることを期待しています。」

という評価コメントをいただきました。

それを聞いて、私たちはアユを実際に観察しなかったことや確かに今見てみるとアユの形というより、魚の下駄という印象が強かったです。

まだまだ改善するところがたくさんあるので、もっとこの下駄を見てまず「アユ」と思ってもらえる下駄を誰かこの先を進めていってほしいです(笑)

5. まとめ

私たちは1年間を通していろいろなことをしました。

まず下駄の鼻緒を郡上の自然のものを使って染めることができなにかと思ひ、学校の周りにある色が出そうな草や花を集めました。草や花を袋に入れ潰してみたりし、布を染めました。それと、草や花を水に入れ沸騰させて色を出したりし、布を染めました。

布を染めるということではできましたが、日にちがたつにつれ、薄くなり色がわからなくなるほどになりました。このことを通して自然のものだけではしっかりと布を染めることがすごく難しいことがわかりました。

次に、下駄の作り方を学びたいと思ひました。その時に、郡上木履さんが白鳥の「ふれあい創造館」で開いていた下駄作り体験に行くことにしました。のこぎりで木を切ることや、削ることなど、鼻緒を通したりすることも初めてなことばかりですごく楽しかったです。この体験を通して、下駄の構造や作り方を知ることができました。諸橋さんにインタビューもしました。

下駄を見たらすぐに郡上！と分かるようにするために、郡上の魅力の一つであるアユの形にしようと思ひました。初めての製図ですごく時間がかかりましたが二人でアユの形を想像しながら進めていくことができました。総合学科のみんなにアンケートを取った結果をもとにして、長時間履いても足が痛くならないためには、鼻緒が取れないようにするには、いい音になるようにするには、歯が削れにくくなるためには、などインターネットで調べたりし、私たちが作る下駄に生かすことができないか考えました。

私たちが作成した製図を実際に木で作ることにしましたが、アユといった難しい形なので木で作る前に発泡スチロールで作ることにしました。まず発泡スチロールを下駄の高さに合わせてボンドではりました。次にカッターで地道に削っていきました。すごく大変な作業でした。

1年間をとおしてパテントコンテストに応募することを目標として頑張ってきましたが、いままでにないアイデアを出すということがすごく難しくて頭を使いました。

この1年間で、「知的財産権」、「意匠権」、「特許権」などの意味を理解することができました。下駄の作り方を学びました。そして、下駄に一番適している木は「ヒノキ」ということも知りました。すり減りにくく、音が響くのが特徴です。



花と草を沸騰した水に入れて色を出し中。ミョウバンで色落ちしにくくしています。



この葉っぱからも色が取れました



染めた布！！



鼻緒作成中！！



発泡スチロールを接着中